

# 幸区区民会議

## 安心・思いやり部会経過報告

平成23年2月16日

1

### 1. これまでの検討の流れ



## 2. これまでの検討の総括

第1回・第2回の専門部会の議論において、新規テーマ・継続テーマの内容を議論し、以下を決定した。

【新規テーマ】高齢者のサポート体制と地域コミュニティ

《具体的取組内容》

- ・高齢者(特に独居)の実態調査
- ・交流の場づくりの検討
- ・救急医療情報キットの幸区版の検討

【継続テーマ】夢見ヶ崎周辺魅力発信事業

《具体的取組内容》

- ・夢見ヶ崎公園の魅力発信(ソフト面)

## 第3回専門部会

(平成22年11月26日)

### 3. 第3回専門部会

#### 高齢者（特に独居）の実態調査

- ・特に独居など、日常生活において困っていることが多いと考えられる高齢者についての実態がどうなっているのかを把握するための調査実施を検討。
- ・個人情報保護への対応が大きな課題。
- ・検証する項目としては、（特に交流者がいない）高齢者の現状、困っていること、これら的高齢者のサポートをする民生委員自身が困っていることなど。

5

### 3. 第3回専門部会

#### （「高齢者（特に独居）の実態調査」についての主な意見）

- ・民生委員からは、本音ベースの現場ならではの悩みについて特に把握したい。
- ・各地区の民生委員の会長がほとんどの情報を把握しているので、会長に話を聞いてみるのは有効。
- ・民生委員の負担を減らしていくためにも、高齢者の実態把握は必要。

6

### 3. 第3回専門部会

#### (参考)ひとり暮らし高齢者等調査について

- ・幸区では、地区民生委員の協力を得て「ひとり暮らし高齢者等調査」を実施している。
- ・本部会では、この調査の概要について、担当課の高齢者支援課より説明を行った。

調査実施体制	幸区が実施主体。基本的には地区民生委員が各戸を訪問して実施。収集した情報は区が管理（公表不可）
調査概要・項目	<p>（個人属性）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・氏名・性別・住所・生年月日・電話番号</li><li>・世帯構成（ひとり暮らし・高齢者のみ世帯・その他）</li><li>・介護福祉・高齢者福祉サービスを受けているか</li></ul> <p>（日常生活の様子）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・外出の頻度</li><li>・家族・親族・近所・友人等、周囲の人と話す回数</li><li>・困っている時に相談できる人の有無</li><li>・緊急時の連絡先</li></ul>

7

### 3. 第3回専門部会

#### 「高齢者（特に独居）の実態調査」の検討 についての結論

##### (結論)

- ・高齢者自身に対する調査は個人情報保護の問題で難しく、また、(独居の)高齢者自体への調査は区が実施している。
- ・このため、困っている高齢者の実態を把握するため、高齢者個人ではなく、民生委員に対してアンケート等を実施して把握することを検討。
- ・実施の方法や調査項目について詰めていく。

8

### 3. 第3回専門部会

#### 交流の場づくりの検討

##### (「活動の内容」についての主な意見)

- ・ 空き教室を活用する場合は、小学生と高齢者が共に楽しみながら学べるような遊びをしたあと、交流会的な催しを実施してはどうか。
- ・ 場所に応じた活動内容を考えるべき(以下は例)
  - ・ 校庭：ゲートボール・グランドゴルフ等
  - ・ 教室：コーラス・手芸教室等
  - ・ 体育館：健康体操、ストレッチ等
- ・ 高齢者が昔の人の知恵を伝えるような、昔あそびを子どもに教えるなどが望ましい。
- ・ 落語などを見て、その後に交流会を行うのもよい。
- ・ イベントを実施するなら、「参加型」か「提供型」のどちらを実施するか。

9

### 3. 第3回専門部会

##### (「活用すべき場」についての主な意見)

- ・ 小学校の空き教室など、公共施設等を有効活用すべき。
- ・ 体育館や校庭等の活用を検討してはどうか。
- ・ 「場」については、夢見ヶ崎動物公園など、屋外も検討してはどうか。
- ・ 空き教室等の活用は市や区も積極活用を推進していることから、区民会議の取り組みに合うのではないか。
- ・ 実際に空き教室や体育館を借りようすると、申込が多数あって選外になることが多いと聞く。
- ・ 試験的に地域を限定して行う、結果がよければ公会堂・自治会館等を利用して各地に広げていくのはどうか。
- ・ 人が「たまる」ことができる場があると自然と交流が生まれる。

10

### 3. 第3回専門部会

#### (「対象とする人」についての主な意見)

- ・ 独居で引きこもっているような高齢者の方をどう外出・交流させるか。(こういった方をターゲットとする)
- ・ 引きこもりの人を引っ張り出すには、元気で知り合いの多い方の協力が必要なので、元気な人も対象とすべき。
- ・ 子育てママは孤独になりやすい。高齢者が子育て世代(お母さん・小さな子ども)の世話をしながら交流するという形がある。
- ・ 高齢者と子どもとの関わりについては、対象とする子供の年代により、関われる場や人が違ってくることに留意しながら内容を検討すべき。
- ・ 多世代交流は重要だが、際限がないので高齢者に的を絞るべき。

11

### 3. 第3回専門部会

#### 「交流の場づくりの検討」についての結論

##### (結論)

- ・ この取り組みについては、今後より具体的な内容について検討を進める。
- ・ 次回の専門部会では、委員各位が具体的な案を作成し、事務局に提出し、それを整理した結果を元に検討を続ける。

12

### 3. 第3回専門部会

#### 救急医療情報キットの幸区版の検討

- ・ペットボトルに個人の救急医療情報に関する紙を入れて保管する「救急医療情報キット」の簡易版の普及をサポートする
- ・中に入れる紙は、幸区が配布している「高齢者ハンドブック」巻末の「私の緊急連絡先」の欄を活用
- ・区民会議では、この作成方法と普及啓発を実施
- ・配布にあたっては、民生委員の協力を得て行うことを想定

13

### 3. 第3回専門部会

#### （「キットの内容」についての主な意見）

- ・ペットボトル自体もコストがかかる。ロゴを入れるなど企業とタイアップするなどできないか。
- ・救急医療情報キットについて、特に情報の更新を誰がどのように行うのかという点がネック。
- ・そのため、救急医療情報の内容は、かかりつけ医に確認してもらうなど情報を知る人のチェックが必要。
- ・誰もが、このようなシートに情報を自力で記入できるわけではない。むしろ、それができない人こそ本当に困っている人であり、そういう人のサポートを優先すべき。

14

### 3. 第3回専門部会

#### (「配布の方法」についての主な意見)

- ・対象となる高齢者についての情報も、個人情報保護の問題から提供できないことから、配布そのものを民生委員にお願いするしかない。
- ・一方、民生委員は高齢化しており、成り手も減少していることから、通常の民生委員の活動をしていくだけでも負担が大きい状況。
- ・ペットボトルを配布して対応する場合は、民生委員への負担が大きい。

15

### 3. 第3回専門部会

#### 救急医療情報キットの幸区版の検討の結論

##### (結論)

- ・ペットボトルを配布する方法での救急医療情報キットについては、民生委員の負担が大きい。
- ・紙に書くだけのものを検討するなど、違った展開を検討していく必要がある。
- ・しかし、当面は、「高齢者が困っていること」を把握していくことが優先( 調査に注力する)

16

# 部会合同視察会

「小倉の駅舎 陽だまり」視察会  
開催日：平成22年12月13日（月）

17

## 4. 部会合同視察会の開催

- ・環境部会の新規テーマである「エコ」と、安心・思いやり部会の新規テーマである「交流の場」という各々のテーマに関連した知識や意識を高めるため、所属部会を問わず参加できる「部会合同視察会」を実施した。
- ・安心・思いやり部会の関連として、「小倉の駅舎陽だまり」の視察会を実施した。



18

# 第4回専門部会

(平成23年1月20日)

19

## 5. 第4回専門部会

### 民生委員を対象としたアンケートについて

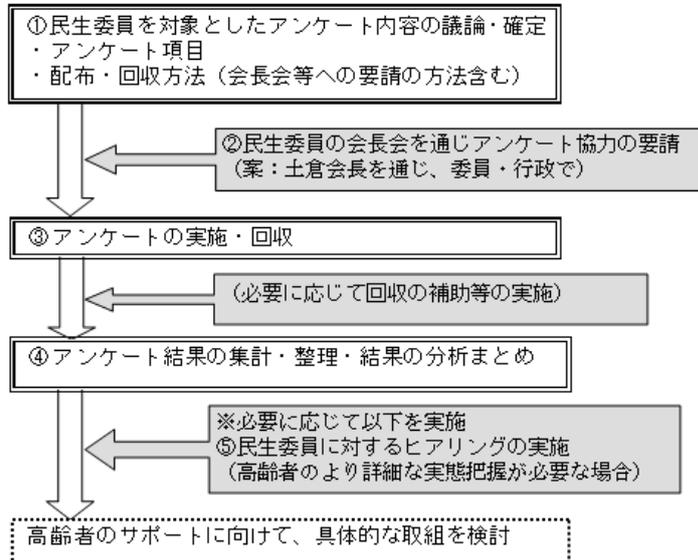
前回の専門部会終了後、「民生委員を対象としたアンケート」について、各委員が具体的なアンケート項目案を作成した。

今後のアンケートの実施の流れや、各委員から提示されたアンケートの項目を整理した結果について議論を行った。

20

## 5. 第4回専門部会

### アンケート実施の流れ（案）



21

## 5. 第4回専門部会

### アンケートの項目（案）

#### 高齢者（特に独居）の実態を把握するような項目

- ・担当する（独居）高齢者における交流者の有無の状況、マンション世帯の状況、担当する高齢世帯の中でマンション世帯が占める割合、救急医療情報を記入できる者の比率など

#### 高齢者サポートにおける問題点や課題を把握するような項目

- ・担当する高齢者世帯への訪問頻度、独居／家族と同居する高齢者別の面会できない世帯の比率及び理由、民生委員が必要とするサポートについてなど

22

## 5. 第4回専門部会

### 「民生委員を対象としたアンケートについて」の検討における結論

(結論)

- ・項目は、できる限り選択式とする。
- ・簡易な内容とするが、対象は140名(新規就任の委員以外の全員)を想定する。
- ・実施には協議会の了承が必要なため、まずは会長会にアンケート案を提示し、説明を行う。
- ・これに先立ち、事前にアンケート案を作成する。
- ・関係主体への調整は、区と各委員が連携して行う。

23

## 5. 第4回専門部会

### 「交流の場づくり」の検討について

前回の専門部会で、より具体的な内容について検討することとなった「交流の場づくり」について、各委員が具体的な取り組み案を作成し、内容について発表を行い、意見交換を行いながら内容について検討をおこなった。

24

## 5. 第4回専門部会

### 各委員からの具体的な提案内容（概要）

提案	<ul style="list-style-type: none"><li>・異なる趣味が一同に会した趣味の作品展を開催。</li><li>・作品展を通じ、多くの人を集め交流を促進。</li></ul>
提案	<ul style="list-style-type: none"><li>・落語やカラオケ会などのイベントを実施。</li><li>・医師会の協力を得て、<u>イベント終了後に高齢者との懇親会を実施。悩み事等を相談。</u></li><li>・その他、町内会主催による誕生会を実施。</li></ul>
提案	<ul style="list-style-type: none"><li>・ボランティアの力を借り、<u>引きこもりの高齢者の外出促進を目的とした昼食会を開催。</u></li><li>・看護師等による血圧測定や悩み相談も実施。</li><li>・歌やゲームなどのイベントも実施し、次の昼食会への参加に繋げる。</li></ul>

25

## 5. 第4回専門部会

### 各委員からの具体的な提案内容（概要）

提案	<ul style="list-style-type: none"><li>・<u>高齢者の体調に合わせた外出支援策（散歩・スポーツなど）を実施</u>する。</li><li>・体調が悪い高齢者には、負担とならぬよう軽い散歩等をしながら会話を楽しむなど工夫。</li><li>・体調がよい高齢者は、軽いスポーツを一緒に楽しみ、仲間を作っていく。</li></ul>
提案	<ul style="list-style-type: none"><li>・<u>地域の高齢者と子供が交流する企画を実施</u>。内容は学年に合わせる。</li><li>・活動内容の例としては、囲碁将棋クラブ（男性中心）、園芸クラブ、手作り布絵本クラブ（女性中心）などを想定。</li></ul>

26

## 5. 第4回専門部会

### 「交流の場づくり」の検討についての 主な議論

- ・交流をしながら、趣味のサークルを作っていくというのもある。
- ・やはり「場所」と「担い手」が大事であり、区民に登録などしてもらえる制度ができないか。
- ・陽だまりのような、話せる場(定期的な活動の場)があると交流がしやすい。
- ・いろいろなことをやるより、1つのことを成功させて次につなげるのが大事。

27

## 5. 第4回専門部会

### 「交流の場づくり」の検討についての 主な議論

- ・引きこもりの人は、引っ張り出されることを好まない人が多い(引きこもっていたい)が、「場」があれば近づくことがある。(陽だまりでは、引きこもりの方が趣味の講座の講師をやっている)
- ・活動が義務化すると継続しない。楽しんでやれることが長続きの秘訣。

28